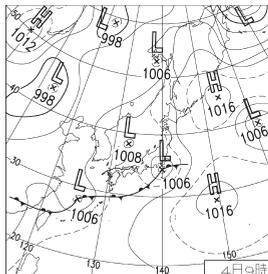


日々の天気図

— No. 90

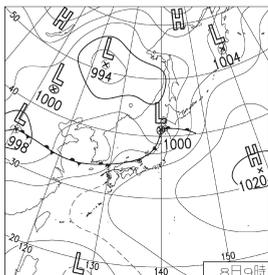
2009年7月

- ・8日～20日、低気圧が発達しながら北日本を頻繁に通過。
- ・岡山県美作市、群馬県館林市など竜巻による被害が相次ぐ。
- ・19日～26日、「平成21年7月中国・九州北部豪雨」。1時間100mmを超える猛烈な雨や、この期間の降水量が600mmを超えた所も。
(気象庁予報部予報課)



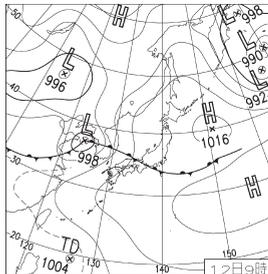
4日(土) 日本海側で雷雨

前線に向かって暖かく湿った空気が流入し鹿児島県十島村中之島で50mm/1hの非常に激しい雨。上空に寒気が流入した本州日本海側でも雷雨。鳥取市佐治で35.5mm/1h。



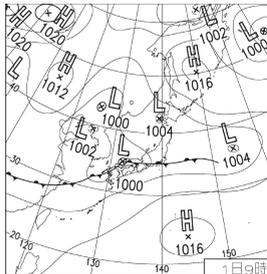
8日(水) 日本海側で激しい雨

低気圧が北日本を通過し前線が日本海に停滞、本州日本海側と北日本中心に雨。島根県海士町で57.5mm/1h。暖かく湿った空気が流入した太平洋側も所々で雨。南西諸島は概ね晴れ。



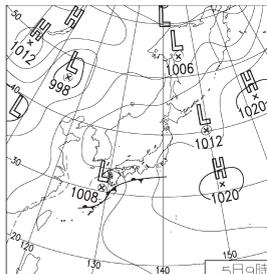
12日(日) 九州南部 梅雨明け発表

日中は東海～東北部を除く東日本は時折日も差したが概ね曇り。その他は晴れて梅雨の中休み。梅雨の明けた宮崎市霧島で最高気温34.2℃。台風第5号短命で熱帯低気圧へ。



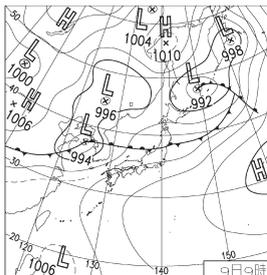
1日(水) 九州北部～中国で大雨

梅雨前線は華中から西日本をとおる関東にのび、ゆっくり南下。南海上から暖かく湿った空気が流入し九州北部や中国で大雨。佐賀県唐津市枝去木で64mm/1hの非常に激しい雨。



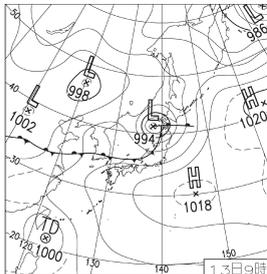
5日(日) 奄美 梅雨明け発表

九州南海上の梅雨前線はゆっくり北上し、奄美で梅雨明け。東～北日本は上空の寒気の影響で局地的に雷雨。福島市茂庭で観測開始以来1位となる53.5mm/1h。



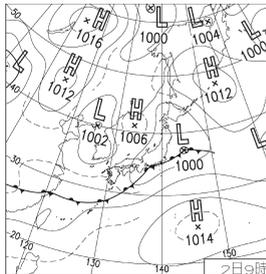
9日(木) 北陸、甲信で大雨

梅雨前線上の低気圧の影響で北陸、甲信を中心に大雨。新潟県佐渡市相川で33.5mm/1h。沖縄～東海にかけては概ね晴れて気温上昇。三重県尾鷲市で最高気温34.7℃。



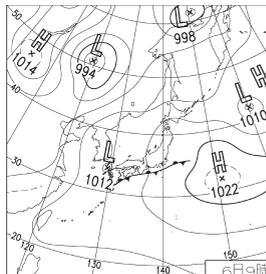
13日(月) 三重県尾鷲市 38.0℃

前線と低気圧が通過し、北日本や北陸で雨と強風。青森県八戸市で最大瞬間風速36.1m/s。関東以西は晴れて猛暑日の所も。三重県尾鷲市で38.0℃、群馬県伊勢崎市で37.2℃。



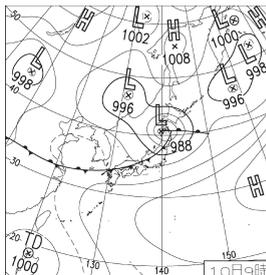
2日(木) 梅雨前線 日本の南岸へ

梅雨前線は朝までに日本の南岸まで南下し西日本の大雨は終息へ。最高気温は、南西諸島を除いて全国的に平年より低く、関東は5月並で埼玉県熊谷市では22.9℃で5月上旬並。



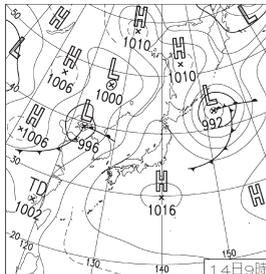
6日(月) 近畿～関東で雨

梅雨前線がゆっくり北上。四国～関東で雨や雷雨。奈良市針で67mm/1hの非常に激しい雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。盛岡市で最高気温30.8℃の真夏日。



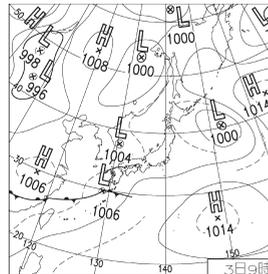
10日(金) 東北で強風

低気圧が北日本を通過し、東北を中心に強風。梅雨前線が日本海から南下し、北日本と日本海側を中心に雨。山梨県南部町では山を越えた気流の影響で最高気温37.0℃。



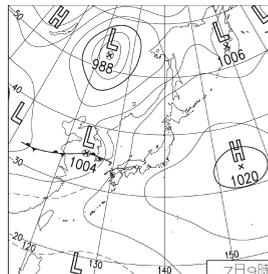
14日(火) 関東甲信梅雨明け発表

北陸～東北は気圧の谷の影響で曇りや雨。その他は概ね晴れたが、太平洋高気圧周辺を回る湿った空気により所々で雨。東海以西で猛暑日の所も。愛知県愛西市で最高気温36.2℃。



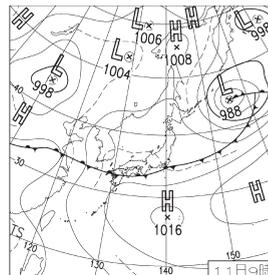
3日(金) 寒気流入

前線に近い南西諸島は激しい雷雨。沖縄県国頭村奥で70mm/1h。上空の寒気の影響で、九州北部や山陰～東北部は午後から所々で雨や雷雨。夜には前線が北上し東日本中心に雨。



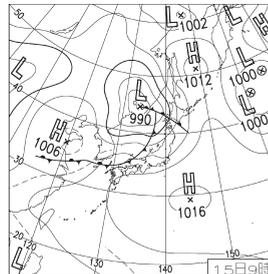
7日(火) 和歌山県で局地的大雨

和歌山県では昨夜から朝にかけて局地的な大雨。みなべ町虎ヶ峰峠で朝9時までの24時間降水量は220.5mm。全国的に真夏日を観測したが北陸、関東～北海道で気温が高かった。



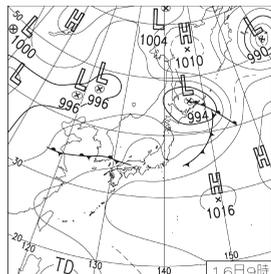
11日(土) 梅雨前線の活動活性化

梅雨前線は九州北部から関東南岸に停滞。前線に沿って湿った空気が流入し、梅雨前線の活動活性化。長崎市南山手町で63.5mm/1hの雨。台風第5号が南シナ海で発生。



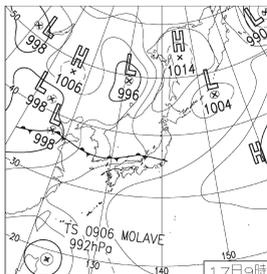
15日(水) 全国各地で猛暑日

低気圧が日本海北部を東進し、北海道で雨。南寄りの暖かい空気が低気圧に吹き込んだ影響で、日本海側を中心に全国各地で猛暑日。夜には前線が南下し、日本海側を中心に雨。



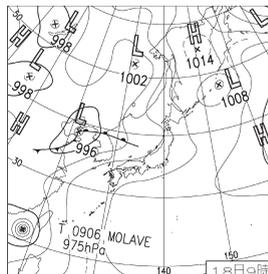
16日(木)大雪山系で大量遭難

北海道大雪山系で低気圧通過時の強風と雨により遭難死10名。沖縄～東北の太平洋側は晴れ、甲府市で最高気温37.0°Cの他各地で猛暑日。台風第6号がフィリピンの東海上で発生。



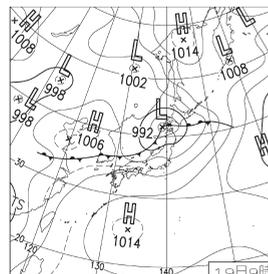
17日(金)各地で局地的大雨

朝は静岡県～伊豆諸島北部で、午後は中国で非常に激しい雨。静岡県松崎町で72.5 mm/1h、島根県大田市福光で55.5 mm/1h。関東で連日続いた真夏日も一部を除いて小休止。



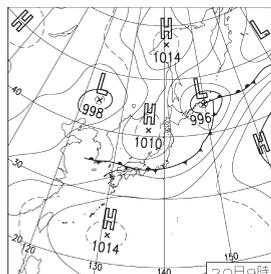
18日(土)北陸、北日本では曇や雨

前線を伴う低気圧が日本海へ進み、北陸～北日本は曇りや雨。その他の地方は晴れたが、日本の南海上から湿った空気が流入し所々で雨。宮崎市府島で最高気温36.2°C。



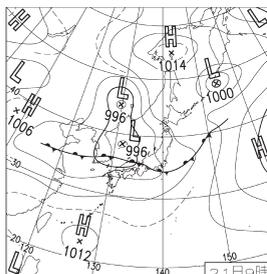
19日(日)日本海側で大雨

低気圧や梅雨前線により中国～北陸および北日本で大雨。鳥取県大山町で67 mm/1h。岡山県美作市で竜巻による住宅損壊。西～東日本の太平洋側の所々で晴れて猛暑日。



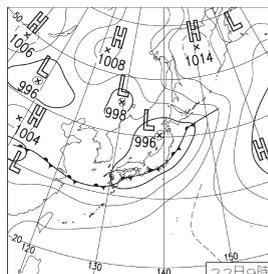
20日(月)中国で大雨続く

梅雨前線が西日本に停滞し、中国では昨日に続き大雨。広島県廿日市津田で61 mm/1hの非常に激しい雨。低気圧が遠ざかった北日本では太平洋側を中心に晴れ間が広がる。



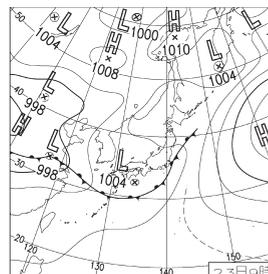
21日(火)山口県で記録的大雨

西日本で前線の活動活発化。九州北部や四国、中国で局地的に激しい雨、山口県美祢市桜山で90.5 mm/1hの猛烈な雨。防府市で日降水量275 mmを観測、共に観測史上1位の値を更新。



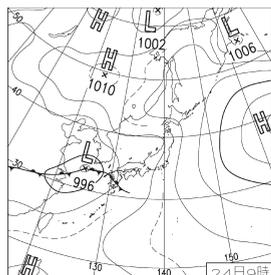
22日(水)46年ぶりの皆既日食

日食の時間帯に晴れたのは八重山諸島、沖縄本島、中国の一部と北陸、その他では薄日も。未明に九州で、夕方は兵庫県で共に非常に激しい雨。熊本県高森町で66.5 mm/1h。



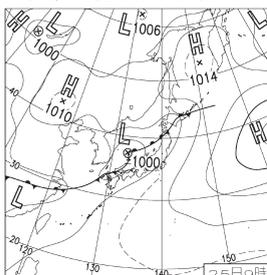
23日(木)西日本 一旦天気回復

東日本太平洋側は南海上から湿った空気が流入し、所々で強い雨。一方、前線が遠のいた西日本は概ね晴れ、二十四節気の「大暑」となった今日、全国で猛暑日となった所はなし。



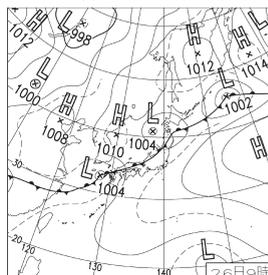
24日(金)九州北部で大雨

太平洋高気圧周辺を回る湿った空気により、東日本～北日本にかけて断続的な雨。低気圧や前線の接近により九州北部で大雨。福岡県福岡空港で116 mm/1hの記録的短時間大雨。



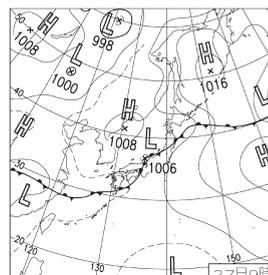
25日(土)西日本で大雨続く

梅雨前線が西日本に停滞し、九州～東海にかけて大雨続く。長崎県佐世保市千原町で79.5 mm/1h、岐阜県下呂市金山で75.5 mm/1h。東日本では太平洋側を中心に晴れ間広がる。



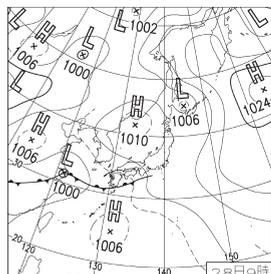
26日(日)九州各地で大雨続く

低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流入し、九州～近畿の各地で大雨。福岡県那珂川町九千部山で80 mm/1h、日降水量309.5 mmを観測し、観測史上1位の値を更新。



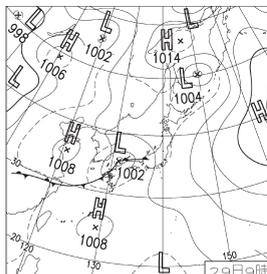
27日(月)大雨は東日本～東北へ

暖かく湿った空気の流入は、東日本～東北へ移り、各地で局地的大雨と突風を観測。静岡県浜松市熊で82 mm/1h、宮城県仙台市新川で55.5 mm/1h。群馬県館林市で竜巻。



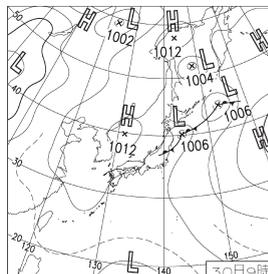
28日(火)不安定な天気続く

本州付近は引き続き暖かく湿った空気が流入し、西～東日本は曇りや雨。紀伊半島～関東南部にかけ所々で激しく降り、和歌山県潮岬で40 mm/1h。沖縄や北海道太平洋側は晴れ。



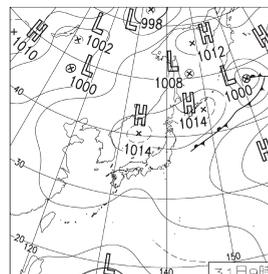
29日(水)近畿南部で大雨

南海上から湿った空気が流入した近畿南部で大雨。和歌山県那智勝浦町色川で51 mm/1h。低気圧や前線の近い九州北部でも再び大雨。長崎県対馬市厳原で50 mm/1h。



30日(木)関東で雷雨

関東以西の太平洋側や北海道日本海側で晴れ間が広がったが、その他は曇りや雨。関東は南海上から湿った空気が流入し北部を中心に激しい雨。栃木県小山市で79.5 mm/1h。



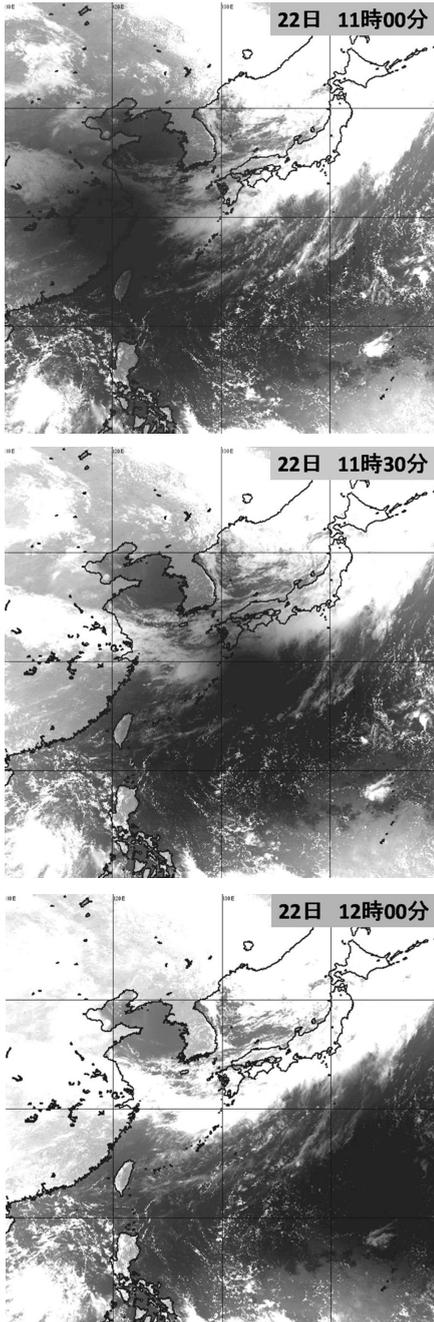
31日(金)四国で梅雨明け発表

日本海中部と北海道の東海上の高気圧に覆われ北日本では概ね晴れ。西日本の太平洋側でも晴れて四国では統計開始以来2番目に遅い梅雨明け。そのほかは曇りや雨の所も。



今月のひまわり画像—2009年7月

「ひまわり」から見た皆既日食



第1図 2009年7月22日のひまわり6号の可視画像。

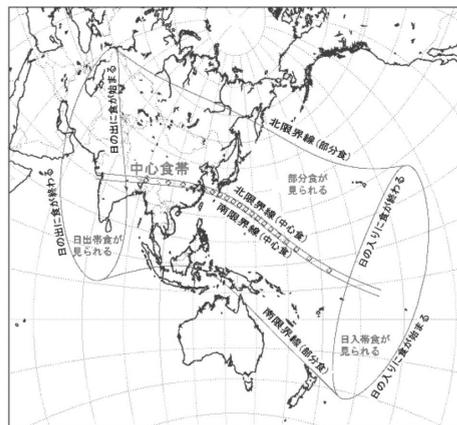
2009年7月22日に、皆既の時間が今世紀最長（6分40秒程度）とされる日食が、日本の陸地で46年ぶりに観測された。日食は、太陽と月と地球がほぼ一直線に並び、太陽が月によりその一部または全部が隠される天文現象で、気象衛星の可視画像では日食の範囲（皆既とその周辺域）を、地面や海面及び雲に映る「月の影」として観測することができる。

第1図は上から順に同日11時、11時30分、12時のひまわり6号のコントラストを調整した可視画像で、大陸～西日本付近には梅雨前線の雲バンドがかかっており、その上を「黒い影」が南東方向に移動している。

第2図は今回の日食が観測できた範囲を示したもので、日食の範囲が大陸から日本付近を南東進していった様子が分かる。

地上や海上から日食を観測する場合、雲は「邪魔者」となる。この日は梅雨前線の雲バンドが日本付近を南下したため、この雲バンドが通過したトカラ列島など観測条件が悪くなった所が多かったが、衛星の可視画像では下層雲域が暗く見えにくくなることで、日食を間接的に観測することができた。

（気象庁予報部予報課 西村修司）



第2図 2009年7月22日の日食図（国立天文台 HP より転載）。